



## 読書のススメ

伊丹市立総合教育センター  
所長 木下 誠

7月に新図書館『ことば蔵』が、100年の時を経て、元あった場所の宮ノ前に開館します。私は図書館をよく利用していたこともあり、新図書館の開館は、とても楽しみです。

私は、「読書」の楽しさを『三国志』や『坂の上の雲』との出会いにより知りました。『三国志』では、蜀の劉備、魏の曹操、呉の孫権など多彩な登場人物が織りなす壮大なドラマに夢中になりました。『坂の上の雲』では、東郷連合艦隊が、日本海海戦においてロシアのバルチック艦隊を綿密な作戦や徹底した射撃訓練など周到な準備により完璧に打ち破る場面に心が躍りました。「努力」によって「運」を引き寄せるという考え方はとても印象的で、部活動指導などその後の私の生き方に大きな影響を与えました。



ところで、スポーツ等で『身体を動かす』ことにより“爽快感”を味わい、自分の人生を健康で豊かなものにしておられる方は多いと思いますが、日常的に『心を動かす』ことも必要ではないでしょうか。『心を動かす』には、映画や音楽、美術作品など優れたものをたくさん観ることだと思いますが、最も手軽なものは「読書」ではないでしょうか。「読書」により、登場人物の生き方に「心が動く」ことで、人としての“やさしさ”や“思いやり”など内面的な資質が育まれていきます。また、「読書」は、思考力や判断力、表現力を培い、取捨選択に悩んだり弱気になったり、落ち込んでいるときに、進むべき「方向」を示し、「元気」を与えてくれます。

私は、最近読書のスタイルが少しずつ変わってきました。一度読んだ本を2・3ヶ月後にもう一度読み返すことが多くなりました。二度目に読んだ時に、ことばの意味を丹念に追い、作者の意図や時代背景などをじっくりと思案することで、一度目には印象に残らなかったことに「心が止まる」ことがよくあります。

先ほども少し触れましたが、本は、「読もう、読んでみたい」という気持ちのある人にだけに、「そっと」生き方のヒントを与えてくれるのです。このように考えると「読書」というものは、人から奨められてするようなものではなく、「読書」をしないことは、人生において、かなり「損」をしていると言えるのではないのでしょうか。

# 全国学力調査 パワーアップの秘訣

## 今一度、見直してみませんか！

小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査が、4月17日に2年ぶりに実施されました。昨年は東日本大震災の影響で実施が見送られましたが、今年度の参加率は、結果を学力向上に生かそうと考える自治体が増えたこともあり、前回は7.7ポイント上回り81.2%でした。因みに、全国では、約25,800校、約178万8千人が参加、伊丹市では、小学校9校・中学校4校が抽出され、残りの全小中学校も同日に実施したり、後日実施したりと有効活用しました。

総合教育センターでは、「文部科学省がどのような学力を求めているのか」を把握するために問題分析を行いました。全教科において、新学習指導要領の内容が色濃く反映され思考力・判断力・表現力を問う問題が多く出題されました。「国語B」は、全問において記述式問題が出題されるなど、普段から書くことに抵抗をなくしておくことが不可欠であると感じました。初めて実施された「理科」では、全問題において実験や観察が扱われ、実生活と結びついた問題が出題されました。平成25年度は、全校参加による全国学力調査が行われる方向です。

### 【小学校6年生】

		出題内容・傾向	具体的な手立て
国語	A	① 「転校する児童へのプレゼントを何にするのか」をテーマに、グループで意見を出し合い、出された意見を図式化し、その図表を読み取り、適切な内容を記述する。 ② 「転校生がやってきた教室の様子」を題材に、教室全体の様子を紹介した下書きと、書き直しを読み比べ、書き直した根拠を記述する。 ③ 「合唱コンクールに関する取材内容」から、必要な事項を組み込んだ <b>学校新聞</b> を作成する。 ※ 全体を通して、 <b>図やグラフ</b> を読み取り、その中から <b>情報を引き出す力</b> が求められている。	① 問題を <b>丁寧に読む</b> 習慣をつける。 ② 授業の中に「 <b>考える・話し合う・発表する</b> 」場面を設ける。 ③ <b>読書</b> を習慣づけ、語彙力・知識・想像力を育む。 ④ 平素から <b>新聞</b> を読み、活字慣れし、長い文章を読み取る訓練をする。 ⑤ 日常生活の中で、正しい <b>敬語</b> の使い方や便箋を使用して <b>手紙</b> を書く経験をさせておく。 ⑥ すべての教科において「 <b>NIE</b> 」を導入する。 ⑦ 常に <b>旅行記や感想文</b> を <b>書く</b> などし、 <b>書くことへの抵抗を減らす</b> 。 ⑧ 学級会をはじめ、終礼等でも、常に自分の <b>考えを自分のことばで発表</b> させる習慣をつける。 ⑨ <b>過去問題</b> を繰り返し行い、調査様式や解答用紙に <b>慣れる</b> 。事前に出題傾向をつかんでおく。
	B	① お礼の <b>手紙</b> を題材に、宮本さんに伝えたい内容を記述する。 ② 「部活動に対する満足度グラフ」を題材に、中学生に対し、 <b>条件に基づいて質</b>	

		<p>問する内容を記述する。</p> <p>③ 「雑誌の陸上競技（マラソン）に関する記事」を題材に、編集者の意図を読みとり、自分の考えを記述する。</p> <p>※ 全問、条件に基づき記述することが求められた。</p>	<p>様式に慣れていないと戸惑いがあり、思っていることもうまく書けません。</p> <p>毎日1つだけでも、新聞記事を読むこと、文章を書くことに慣れるとパワーアップ！</p>
算数	A	<p>① 「長さの違う2本のテープ」を題材に、1本のテープから除法により、もう1本の長さを求める。</p> <p>② 「5日間に畑で採れたトマトの数」を題材に、1日あたりの平均の収穫数を表から求める。</p> <p>③ はがきの面積を求める。</p> <p>④ 与えられた条件を活用し、四角形の1つの角度を求める。</p> <p>⑤ 高さと体積の関係を求める。</p>	<p>① 問題の意味を読み取るため、文章を少しずつ分けて思考しながら読む習慣をつける。</p> <p>② ドリル、小テストや繰り返し学習、家庭学習を継続する。</p> <p>③ 日頃の会話や体験の中に算数的活動に生かせるものはないかを見直し教材化する。</p> <p>④ 設問に対し言葉で説明できる力をつける。</p> <p>⑤ 買い物時にお金を勘定するような模擬的な算数的生活体験の場を設定する。</p> <p>⑥ 文章題を、表や線分図に整理して示すなどイメージ化できる力を培う。</p> <p>⑦ 問われている内容の理解が難しい子どもには、算数的な思考につながるよう個別指導する。</p>
	B	<p>① 「日常生活におけるお釣りの個数が少なくなる方法を考えるとともに、文章表現する。</p> <p>② 「規格の異なる2種類の跳び箱」を題材に高さをそろえることができるかどうかを言葉で説明する。（この問題は体育科とも関連付けられている。）</p>	
理科		<p>① 「氷砂糖の実験」を題材に、氷砂糖を割っても氷砂糖を溶かしても重さは変わらないという「質量保存の法則」に基づく知識を説明する。</p> <p>② 「サクラの開花」を題材に、虫メガネの正しい使い方を説明する。観察結果から、開花は、気温に関係があることを説明する。</p> <p>③ 「ゴムを動力とする車の実験」を題材に、ゴムをねじった回数と走行距離の関係をグラフから分析し説明する。</p> <p>④ 「水を沸騰させる実験」を題材に、水蒸気が物を動かす力になることを説明する。</p> <p>* 全問において、新学習指導要領が重視する「観察・実験」が踏まえられている。</p>	<p>① 問題の文意を読み取る力を培う。</p> <p>② 実験・観察に必要な基礎知識を定着させるため、実験する回数を確保する。</p> <p>③ DVDや実物投影機の画像だけでなく、実際にルーペを使った観察をするなど実験・観察を重視し、実験を通して科学的事象を理解させる。</p> <p>④ 考える時間、発表する時間を授業の中に設定する。</p> <p>⑤ 結果から客観的な事実を捉え、他人に伝える。</p> <p>⑥ 実験や観察の記録を整理して、グラフや表にまとめる。</p> <p>⑦ 理科実験のサイクル「根拠に基づく予想、実験・観察、結果整理、考察、発表」を繰り返し行う。</p>

\* 中学校3年生の調査でも似た傾向があらわれています。同様の対策で パワーアップ！

見通しを持って実験したり、実際に一人ひとりが直接観察したりすると、パワーアップ！

# キラッと!ひかる★ことば

その3

伊丹市では、平成18年度から『ことばと読書を大切にす教育』を教育目標として教育活動を推進する中で、着実に言語力が育まれてきています。

今回は、学校行事から『キラッと!ひかることば』を拾ってみました。

## 修学旅行の感想から 伊丹市立東中学校 3年 大西 勇磨 さん (修学旅行実行委員)

修学旅行二日目、ガタリンピックでは、みんなが協力し、1つになれたと思った。そんな中ルールを破った人が出てしまった。

楽しかった日の夜の反省会のこと、いつもは優しい総務委員のみんなが別人のように自分の思いを口にした。

僕は、総務委員の一人ひとりの思いを聞いていると本当に納得させられ、心に響いた。

三日目の朝、僕は、学年のみんなの前で僕の思いを訴えた。その後の班別活動では、みんな時間を守り活動できた。(中略)

総務委員の代表として考え、自分の言葉で学年みんなに思いを訴えたこと。全てをひっくるめて、「成長できた修学旅行」だった。

セレモニーで平和を誓った言葉。みんなに訴えた言葉。そのことを必ず頭のどこかにおいて、これからの人生に生かしていきたい。



※ 紙面上、略しているところがあります。

※ ガタリンピック…干潟の上での運動会のこと  
修学旅行プログラムの1つ。

## 特別支援教育豆知識 その5

### 発達障がいの子どもが増えている…?

今の子どもたちの生活は「便利なもの」に囲まれています。赤ちゃんがハイハイや歩くなどして、自分から行動しなくても、テレビ画面を通していろいろなものが近づいてくるなど、視覚的・聴覚的な刺激にあふれた生活環境があります。

子どもは昔のように走り回ったり、木の枝や石ころなど自然のもので工夫したり、異年齢で群れて遊んだりすることが減りました。色とりどりのきれいなおもちゃや、音や光の出るおもちゃ、現実にはない「バーチャルな世界」を体験できるゲームなどで、自分と合わない友だちとは交わずに、個々それぞれで遊んでいます。

大人(両親以外に祖父母も)は失敗に敏感で、子どもが躓く前に先回りして手助けをしたり、子どもが自分で考えて決める前に「これが、あなたのためなのだよ」とお膳立てしたりしてしまうことが多いのではないのでしょうか。「学校での学習におくれないように」とパターンの文字や計算を覚えさせることで、子どもたちは新しいことを知る喜びを失い、自分でいろいろ考え、試行錯誤することが苦手になっているのではないのでしょうか。

文部科学省の統計によると特別支援学校及び特別支援学級に在籍する子どもの数は年々増加傾向にあります。しかし、「発達障がいの子どもが増えている」という明らかなデータはありません。このような「便利な世の中」が子どもたちの「発達のアンバランス」を生み出しているという考えもあります。